Istituto Figlie di Maria Ausiliatrice
Salesiane di Don Bosco

和解と平和の職人 シスター マリア・トロンカッティ

シート 4
Sr.マリア・トロンカッティ：すべては宣教のために

今月は、Sr.ロジータ・モリーナへのビデオ・インタビューを通じて、Sr.マリア・トロンカッティの宣教女としての側面について詳しく紹介します。彼女の宣教のメッセージを深めるために、この記事ではSr.マリア・トロンカッティに関する証言と、彼女の手紙を紹介します。

神の言葉

Sr.マリア・トロンカッティは、福音書に出てくる貧しい未亡人に似ています。彼女は持っていたすべてを捧げました。彼女は神と神の計画に完全に身を捧げました。彼女は主から受けたすべてのものを他の人に与えました。彼女はその使命と、出会ったすべての人々に全身全霊で取り組みました。それは新聞の一面には載らず、世界情勢に影響を与えることもありませんでした。しかし、彼女の2枚の小さなコインは、多くの人の人生を変えました。そしてイエスは天国で私たちのために執り成しをすることによって、その状況を変え続けておられます。

「イエスは目を上げて、金持ちたちが賽銭箱に献金を入れるのを見ておられた。そして、ある貧しいやもめがレプトン銅貨二枚を入れるのを見て、言われた。「確かに言っておくが、この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。あの金持ちたちは皆、有り余る中から献金したが、この人は、乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである。」（ルカ21章 1－4節）

Video: Sr.マリア・トロンカッティ：Sr.ロジーナ・モリーナ(サレジアン・シスターズ).へのインタビュー

要約（列聖手続きにおける証言）

スクアの病院の ある医師による証言

「私は病院に配属された唯一の医師だったので、かなりの数に上る外科手術のすべてに責任を持たなければなりませんでした。時々少し孤独を感じることもありましたが、シスター マリアは、いつも私に励ましの言葉をかけ、勇気づけてくれました。『先生、あなたならきっとできると信じています。手術中、祈ります』と。

シスター マリアは強い個性の持ち主でした。彼女は権威のある人に対しても非常に自然に振る舞いました。彼女は皆にとって真のアドバイザーでした。富める者も貧しい者も、一般の人々も公的な責任を担う人々も、彼女を頼りにしていました。飛行機のパイロットたちも彼女のところへ行きました。彼女はすべての人が真実に出会えるよう助け、それを非常に賢明かつ簡潔に行ったので、すべての人が穏やかな心と笑顔で帰っていきました。

シスター マリアは病院の魂でした。彼女は全員一致の尊敬の念に包まれていました。彼女の言葉は自信と勇気を与えていました。彼女は深い信仰をもつ女性であり、常に彼女に伴う内なる喜びが彼女の全身から輝いていました。彼女は繊細で、秩序や清潔さ、さらには花の世話をすることさえ好きでした。彼女の存在、彼女の喜びは「人生への感謝の歌」でした。彼女は不平を言わず、恨みも抱かず、過去のことを思い出すこともありませんえした。彼女は皆を愛し、皆からも愛されていました。

彼女は私の仕事を補う奉仕を病人に対して提供していました。彼女は病院にやって来て人々とコンタクトを取りました。私は技術的な部分を担当し、彼女は精神的な部分を担当しました。シスター マリアと親しくしていたことが、私にとって大きな助けになったと断言できます。実際、私は彼女の精神を自分のものにしようと努めていると言わなければなりません。私はそれを仕事の面で、特に大学教授としての立場で応用しようとしています。シスター マリアは、非常に寛大な心をもち、他人の痛みに敏感で、常に各人に適した介入を行っていました。彼女は病院の要でした。彼女は私たち従業員全員に信頼、友情、精神的支援を与えてくれました。」（要約 294-295）。

Sr. マリア・トロンカッティの手紙より

Sr.マリア・トロンカッティの 総長マードレ ルイザ・ヴァスケッティに宛てた手紙（手紙44）

５年ぶりにマカスに戻ったSr.マリアは、前年に大火事で大きな被害を受けた宣教所の様子を語ります。さらに、彼女は受けた嬉しい歓迎について語り、復興への連帯の取り組みに対する喜びを表明しています。彼女は、シュアール族が、自分の子どもや妻のカテケージスや教育を託すシスターたちに対して示す信頼の姿勢に特に満足しています。

キヴァリ族の宣教女としての勤勉さ。
自分の最も愛する仕事の場に戻ったマカスの院長の手紙から

1939年7月29日　マカスにて

５年間の不在の時期を経て、この愛すべきマカスの宣教地に戻ってくることができ、大変嬉しく思っております。キヴァリ族の人々は、私を喜んで迎えてくれましが、何人かは私に会いうためにメンデスまで来てくれました。そして彼らの笛を吹きながら、宣教所まで私に同行してくれました。もちろん、私は到着するとすぐに、火事で焼け落ちた美しい教会と私たちの小さな２ 軒の家の代わりに、精一杯間に合わせで建てられた粗末な小屋がいくつかあるのを見て、心が痛みました。しかし一方で、生き生きとした美しいキヴァリの人々の集団に囲まれたシスターたちが幸せで満ち足りているのを見るのは、私にとって大きな慰めでした。喜びは快適さや安楽さの中にあるのではなく、神の栄光と魂の救いのために愛情をもって直面する、最もみすぼらしい貧困の中にさえも伴うものであるというのは、本当に真実です！

今では、カミン閣下の父親のような優しさと、宣教地のサレジオ会の神父様たちのお心遣いのおかげで、私たちは昨年の５月から、作業室と外来診療所兼無料診療所の併設された部屋を備えた新しい小さな家に住むことができました。

キヴァリ族の寄宿生は 47 名います。ここの場所に対しては、かなりの人数です。なぜなら、キヴァリ族は、子どもたちを宣教所に残していくことには、ある程度の安易さを認める一方で、娘たちと別れることには非常に消極的だからです。数か月間、医者がいないために全面的に私たちの世話に委ねられている何人かの病人に加えて、非常に悲惨な状況で集められ、確実な死から救われた、私たちの家族と呼べる子どもたちの小さなグループもいます。

キヴァリ族の少女たちに対しては、ご存じのように、朝から晩まで絶え間ない忍耐が必要です。特に、すでにかなり大きな森からやってきて、密林の習慣だけをもってくるキヴァリの少女たちがそうです。しかし、３年間、昼夜を問わず一度も彼女たちから離れなかったアシステンテは、彼女たちと一緒にいられてとても幸せだと言い、残りの人生をそこで過ごせること以外何も望んでいません。実際、主は、これらの哀れな被差別部落の人たちが、少しずつキリスト教の真理を学び、それを新しく来た人たちに教える様子を目の当たりにして、言葉では言い表せないほどの慰めを与えてくださいます。その温かさと、自発性の新鮮さは感動的ですらあります。

キヴァリの人々が私たちに提供するもう一つの美しい働きの場は、ウパノ川の対岸にある「聖ヨハネ・ボスコ教会」で、毎週日曜日に子どもたちや女性たちにカテキズモを教えるために通っています。そこにはすでに、キリスト者になったキヴァリの人々が建てた小さな教会のある美しい村が形成されています。そして今、彼らは私たちがそこに永住するのをただ待っているだけなのです。彼らはほぼ毎回同じことを繰り返します。「あなたたちが来なければ、誰が私たちの子どもたちを教育するのですか？」と。私たちは、時間が経てば彼らを満足させることができるようになることを望み、その間、毎週の訪問で彼らにできる限りの善行をするよう努めています。

そして、一般的に言えば、彼ら、つまりキヴァリ族全体が、私たちに感動的なまでの信頼を寄せています。しばらくキヴァリを離れなければならないとき、シスターたちの家以上に家族にとって良い避難場所はありません。そして、おそらくは妻子とともに遠くからやって来たこれらの強くて誇り高い男たちが到着し、あまり前置きもなく私たちにこう言うのを見るのはとてもすばらしいことです。「私たちが迎えに来るまで、私たちの妻と子どもたちを預かってください」と。キヴァリ族の不信感と疑念に満ちた心を知る人々にとって、この自発的で心からの信頼は、使徒職の困難でゆっくりとした仕事において、他の人々を慰め、希望を与える勝利をすでに示しています。主が恵みをもって他の人々の信頼を早めてくださいますように。私たちは信頼のうちに働きと祈りをもってそれを待ちます…　　Sr.マリア・トロンカッティ(サレジアン・シスター)

（CIEZKOWSKA Sylwia [編集]、『エクアドルの宣教女 シスター マリア・トロンカッティの手紙』
サレジアン・シスターズ、ローマ、2013年）。

振り返りのために

大人たちのために

1. マリアは宣教に出発した時、なんのためらいも後悔もなく、全身全霊で出発しました。私も自分の義務に全身全霊で取り組むことができているでしょう
2. 困難に直面したとき、私はどのように反応していますか。困難を挑戦と捉え、対処法を探しますか。それとも、すぐに落胆してしまいますか。
3. 託された人々を育てるにあたり、私は忍耐強くいられるでしょうか。すぐに結果を求めるでしょうか。それとも、神と人々のタイミングを辛抱強く待つことができるでしょうか。

若者たちのために

4. 人生の道を探し求めていることを分かち合える、信頼できる愛する人がいますか。もしいるなら、その人のために祈っていますか。もしいないなら、そのような人を探しに行っていますか。
5. 宣教師になるためには、シスター マリア・トロンカッティのように遠い国に行く 必要はありません。どこにいても宣教師になれるのです。家族の中で、学校の友達の中で。あなたは宣教師になることについて考えたことがありますか。あなたは何をすべきで、どのようにあるべきでしょうか。

祈りのために

全能の神、おやさしい父よ、
今日、わたしは感謝と希望に満ちた心であなたに馳せ寄ります。
献身と愛をもって、
あなたの福音を世界中に広めている、すべての宣教師を祝福してください。
彼らに、仕事に励む力と勇気を与えてください。
そうすれば、彼らはこれからも困っている人々に奉仕し、
暗闇に光をもたらすことができるでしょう。

主よ、彼らの旅路をお守りください。
彼らをすべての危険から守り、彼らの心を平和で満たしてください。
彼らがすべての歩みにおいて、あなたの現存を感じることができますように。
彼らに知恵と理解を与えてください。
そうすれば、彼らは話す言葉を見出し、
人々をあなたに近づけるような行動をとることができるでしょう。

宣教師たちが奉仕するすべての人々のためにも祈ります。
心と思いを開き、
その人々が、あなたの愛と恵みのメッセージを受け入れますように。
彼らの中に信仰の種が芽生え、
その人生を通じて周囲の環境を変えるような実を結ぶことができますように。

祈りを通して、あなたのこの世に対する偉大な計画に
参与する機会をいただいたことを感謝いたします。
わたしに勇気と熱意をお与えください。
あなたの光と愛を世界の隅々にまで広めるために。
あなたがわたしをお遣わしになるどこにおいても、宣教する者であらしてください。
それは、もしかしたら遠い国ではなく、わたしの故郷かもしれません。
そしてわたしは、あなたがわたしを派遣する人々の間で
わたしの人生、わたしの言葉、わたしの行動を通して、
あなたを証しします。
アーメン。